

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300168		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム徳倉 1F		
所在地	静岡県駿東郡清水町徳倉900-1		
自己評価作成日	平成23年 8月28日	評価結果市町村受理日	平成23年 11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhvou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JGD=2271300168&SCD=320&PCD=22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年 10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・身体拘束をしない。・献立は無く毎日近所のスーパーに利用者と食材の買出しに行く。・特別な行事がない限りは2ヶ月に一回、個別に外出に行く。花見や紅葉狩りなど季節を感じる行事や食べ物などに触れる。(毎日の食材の買出し)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から8年目を迎え当初からの職員も多く、のびのびと過ごす利用者と明るく家庭的なグループホームになっています。西側道路は交通量が多いですが、利用者と一緒に近くのスーパーマーケットへ毎日カートを押して買物に出掛けています。運営推進会議で活発に地域との交流が図られており、生き生きサロン、敬老会等地域の行事、保育園との交流も積極的にしています。また、非常災害に対する意識も高く、年2回の訓練に加え、自治会の訓練への参加、予告なしの夜間想定訓練も行っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やさしさ、ぬくもり、家庭的、尊厳の理念を再確認し、実践に繋がれるよう勤めている。	ホーム独自の理念を目に付きやすい洗面所の上に掲示し、管理者は職員にそれぞれが考えて実践するように話しています。意識が薄れてきたり、問題があった時等は、全体会議やユニット会議で話し合い、意識の統一を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいきサロンや軽スポーツ大会など利用者が参加できるものに対し積極的に参加している。ホームのお祭りにもポスターを近隣に掲示し、御誘い文を送り地域の方々に来てもらっている。	近隣にアパートが増えて以前より交流は希薄になりましたが、毎日の買物や散歩で地域の人達と挨拶や話をしてしています。保育園の運動会や遊戯会の予行演習に出かけ、園児が敬老の日に来てくれる等の交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの育成に参加している。近隣の保育園との交流や地域の催し物参加、地域防災への参加などでホームのことを知ってもらおう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加されている地域の方々にはホームでの様子、また疑問点の意見交換をしサービス向上に活かしている。	自治会役員、住民、保育園長等地域の出席者も多く、特に議題を決めることもなく進行し地域の集りの場となっています。防災対策や地域行事等について双方向に意見が交わされ、サービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の利用者や介護保険等に関することなど相談、協力を得ている。	保健センターの栄養指導や地域包括支援センターとの連携、町役場からは生活保護の利用者に関する相談や問合せ等があり、情報も得やすい関係にあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社外講習や研修に参加し、理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関を施錠せず、ユニット毎のドアはメロディ音で開閉を知らせます。自由に出たがる方は、職員が見守りながら付いて行きます。全職員が順に研修に参加して正しい理解に努め、スピーチロックを含めて互いに注意しあっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社外講習や研修に参加し虐待の防止に努めている。		

静岡県(グループホーム徳倉 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要としているご利用者はいないが必要性があれば話し合う機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、ご利用者様に契約者を見ながら理解し納得いくように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム面会時、カンファレンスにご家族ご利用者の参加で要望、意見等を聞き反映している。また推進会議等にも機会があれば参加をして頂き地域の方々とは話しを設けている。	家族が面会に訪れた時や、家族会やカンファレンス等で意見や要望を聞いています。出された意見にまず取り組み、できる、できないの範囲を判断して利用者や家族に伝え、運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議、ホーム全体会議などで意見、提案をだし反映している。	口頭や申し送りノートで提案された意見や要望は、その場やユニット会議、全体会議で話し合い決定します。防災、栄養、記録等の各委員からの提案もあります。管理者から提案を投げかけ、最近ではターミナルケアについて職員全員で考え、意見を出し合って反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本人の希望や勤務状況などによりパートから常勤、リーダーなど推薦し働き甲斐など向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望などを踏まえ外部、社内等の研修を定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの情報交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族などから情報を集め、またご本人からの聞き取りを行い、ホームで安心して生活できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や困っている事、グループホームに求めている事を聞き取り、支援、ケアに生かせるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人からの聞き取りや、ご家族からの情報を元に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の風習や、智恵など教えてもらい家事など共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員だけによる支援ではなく、ご家族野方と話し合いを設け必要に応じ協力をお願いし一緒に支えていく関係を持つようにしている。(受診、外出、慶弔など)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人が気軽に遊び来、お部屋でゆっくりお話しができる様努めている。近況など手紙やはがきを送れる様ポストまで一緒に行く支援や職員が代わりに出す支援を行っている。	ホームが住み慣れた場所になり、入居以前の馴染みの関係が少なくなっていますが、手紙や電話での関係継続に努めています。知人が手紙をもらったからと訪ねてくれたり、友人の声が携帯電話に届く方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ話題で関係が作れる様職員が話題作りをしたりゲーム、歌、家事など関わり合いをもてるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、ご家族から入院生活の様子など連絡が入ったり、今後の生活についての(退居された)相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で気になったり気付いた事があれば本人とのコミュニケーションの中で思いや希望など把握できるようにしている。	独自のアセスメントシートを使い、入浴等の個別ケアでの気づきや、家族の聞き取りからも思いや意向の把握に努めています。外食の希望等を申し送りノートに記入し、居室担当者と話し合いできるものは即実行し、検討を重ねてできるだけ希望に沿うよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通しホームで安心して生活できるように今まで家で使っていた物、大切にしていた物(仏壇、絵画など)で自分の部屋作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、カンファレンス、ケアプランの見直しなどから現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングは担当がおこないカンファレンスに医師、訪問看護師の意見を取り入れ、本人、家族の要望、職員の意見を総合しプランを作っている。	モニタリングやカンファレンスは各居室担当者が中心となり行っています。全職員が記入した意見と日々の利用者の情報、家族や医療関係者の意見を基に、計画担当者が介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子からのケアの実践、その結果や気づき、工夫などを個別のケース記録に残し、変化があった時は情報を共有し実践やプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限る本人、家族からのニーズにこたえられるよう努め、ホームでできる範囲の中で臨機応変な考え方で対応している。		

静岡県(グループホーム徳倉 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあいいきいきサロン、軽スポーツ大会、敬老会などの参加で地域との交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に沿った病院受診ができる様に努め、ご家族付き添いにての受診、職員付き添いの場合もバイタルチェック表やケース記録を活用し医師に報告、密に連絡をとり適切なアドバイスをもらっている。	本人と家族が希望する医療が受けられるように情報を提供して家族との受診を支援し、必要に応じて管理者が同行することもあります。協力医は週1回の回診があり、近隣の内科医院と共に24時間の連絡体制ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が来る際に、職員が看護日誌に前もって記入し、気になったこと等伝え見てもらい、アドバイスを受けている。その際には本人にも同席していただき意思確認をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院などは職員が日々の様子を病院側に伝え、できる限りスムーズに治療が行えるようにしている。また様子を見に行き担当看護師等に様子を聞き、ご家族医師ホームの連携をとり早期退院につなげている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は見取りなどご家族とホーム側での話し合いは無いが、緊急時の対応については、ご家族の意向を書面に取っている。また今後職員の看取りに対する意識を確認した為ご家族からの申し出が合った場合、他職の方々チーム支援を図っていく	入居時に重度化した場合の確認はしていますが、「緊急時の同意書」は取っています。家族からの要望は今のところはなく、管理者と職員が全体会議で話し合い、ホームとして看取りを行う方向で検討を始めています。	勉強会や講習会等に参加し理解を深めると共に、早い段階で本人と家族の意向を確認し、医師や訪問看護師等の医療関係者、家族を含めたチームとして取り組んでいくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム独自のマニュアルを作っておりそれに沿った対応をする事になっている。また訪問看護師に相談しアドバイスを頂いたり、防災訓練時消防の方々にアドバイス等ももらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練に参加し、避難誘導がスムーズにできるよう努めている。また地域防災訓練の参加も同時に行っている。	年2回の避難訓練や、8月の地区の防災訓練にも職員と一部の利用者が参加し、職員は夜間に予告なしで情報伝達訓練も行っています。火災対策のため19時以降はガスの元栓を締める等、消防署と連携しアドバイスを受けて防災対策に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに対応をするよう心掛けているが、他の職員の言葉かけなどを聞いて考えさせられる事がある。	管理者と職員は利用者一人ひとりの人格を尊重して、自覚を持った言葉かけをするように心掛けていますが、馴れ合いのなかで対応をしているときがあり、気づいた時には互いに注意するようにしています。	利用者に向けて発している言葉の内容や語調等が、利用者の誇りやプライバシーを損ねるものになってはいないか、全職員で日常的な確認と具体的な改善に向けて話し合っていくことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表す事のできる環境作りを行い、「自分はこうしたいんです」と言えるように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、なるべく希望に沿うように支援しているが職員の都合を優先している事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれまではいかないが身だしなみには気を使っている。清潔を第一に考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話をしながら楽しく食事を作ることもあるが回数は少ない。家事が得意な利用者さんと準備や片付けを行い、皆で食事はいただく	利用者と職員が毎日買物に行き、利用者の意見や前日と重ならないようにメニューを決めます。コロッケを丸めたり酢飯の味を見たりできる方が行い、片付けも役割分担により自然に行われています。テレビを消して職員も一緒に食卓を囲み、それぞれのペースで食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さん一人ひとりその人に合った食事を提供している。水分量は1日1200mlから1500mlを目安に飲水し記録に残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人できる方にはご自身でやっていただき、入れ歯を使用している方には洗剤等できれいにしていただいている。		

静岡県(グループホーム徳倉 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があった時は恥じをかせない様配慮し、おむつ使用はありません。ほとんど自立です。排泄のパターンを知り、声かけによりトイレに行くことで支援しています。	一日も早くおむつを減らしトイレでの排泄を支援することで、ほとんどの利用者が自立し、おむつの使用はありません。リハビリパンツや布パンツのみで日常的にパットは使用せず、なぜ失敗するかを考え、自然な誘導やさり気ない声かけをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食べ物、調理の工夫(繊維を切る、水分を多く取ってもらうなど)や体操、散歩など働きかけ便秘の酷い人は医師と相談し薬の処方して頂く。腹部マッサージなども行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「フロに入りたい」と訴えがあるときは、希望が叶うように話し合います。利用者さんが外出して疲れている時は本人の希望にあわせて曜日を変更する事もあります。	平日の午後に実施していますが、希望や状況によりいつでも入浴できます。基本は1人で介助し、困難な場合は2人で対応します。拒む方が他の利用者の協力と誘導の工夫で、入れるようになっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアのテーブルで傾眠したり、伏せている人に対して「自室で休みましょう」と伝えたり、足の浮腫のある方に対しては午前、午後30分～1時間程度自室にて休んでもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、職員が各々薬情報を見て情報を集めている(目的、用量)副作用に関しては医師、薬剤師に前もって聞き実際に表れた症状などは医師に伝え指示をもらい情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	経験豊富な先輩として、相談にのってもらったり、悩みを聞いてもらったりする。会話の中で嗜好品、楽しみ事の情報を収集しなるべく実現できるように努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常の会話の中から本人の行きたい所などの情報を収集し、なるべく希望に合うところへ出かける。またその情報をご家族にも伝え、希望が叶うようにする。	毎日の買物のほか、2カ月に1回の外出、敬老会の参加、菊まつり見学、修善寺公園の散歩等、本人の希望に沿った外出を支援しています。家族の協力で、ドライブや食事、墓参りなどにも出かけています。	

静岡県(グループホーム徳倉 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理のできる方は御家族と相談の上本人管理をしてもらっている。「～を買いたいです」との訴えに対して職員も一緒に買い物に行く。ホームで御家族より預かっているお金に対しても買いたいものがあれば本人にお金を渡し一緒に買い物に行ってくる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも。手紙を書けば職員ポストに入れたり、本人と一緒にポストに出しに行く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音→音楽の好きな人、そうでない人を考え音量を考慮する。温度→室温は一定に設定しここに服を脱いだり着たりしていただく。暑い時期に脱衣所は熱が籠るので扇風機をかける。居室のドアを開けておくことで室温を一定に保つ、一人ひとりの意向を聞きながら不快を感じないようにする	リビング兼食堂は広々として、キッチン横の和室は前後に壁や扉がないため開放的です。テラスから光が差し込みホーム全体が明るくゆったりとしています。室温は常に調節され、利用者と相談しながら居心地のよい空間づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになれる→各居室 気の合った利用者同士→フロアのテーブルで会話する。和室の見えないところで会話する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を使用している。物が多すぎると転倒のリスクが高くなる入居者はいるので物も多く置かない様に本人や御家族と相談している。地震が起こりうる事も考え倒れる物を考慮する。高いタンスなど止めている。	自宅からたんすや仏壇、大切な写真や人形等が持込まれ、整理や掃除が行き届いた部屋、少し雑然とした部屋等、個性的な居室となっています。転倒のリスクが高くなった時点で、家族や本人と相談しながら整理をし、居心地よく安全に過ごせる工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「できる事」を見極め、自力でやって頂くことにしている。家事全般。お風呂の場所、トイレの場所など大きな字で掲示しわかるようにしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271300168		
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム徳倉 2F		
所在地	静岡県駿東郡清水町徳倉900-1		
自己評価作成日	平成23年 8月 28日	評価結果市町村受理日	平成23年 11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kai gokouhyou.jp/kai gos ip/ infomationPublic.do?JCD=2271300168&SCD=320&PCD=22>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成23年 10月 3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

身体拘束をしない。季節の物を提供する事で四季を感じていただけるようにしています。(毎回スパーに行き会話に入れるようにしています。)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の勉強会や会議の時に理念について話し合い実践に向けて努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会、花火大会、お祭り等に参加、またホームでのお祭りにはポスターや声かけ等し地域の方にも来てもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災訓練に参加したり、近くの保育園と交流したりホームでの催しに近隣の方に参加してホームの事を知って頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の水曜日に定期的に行い、地域役員や御家族、時には利用者様にも参加していただき意見交換をしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域抱括センターと連絡を取り合ったり保険センター主催の栄養相談などを利用し協力を仰いでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の勉強会等において互いに理解を深め拘束のないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加することで認知症を理解し虐待が見過ごされることがないように互いに注意し合っています		

静岡県(グループホーム徳倉 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の説明会等に参加しているが今は対象となる利用者はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対して書面をみて頂きながら十分な説明をして理解して頂き署名捺印をしていただいています。疑問や不安などには面会時ご説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、御家族と会話を多く持ち、話し出しやすい環境作りをしています。家族会を設け意見交換の場をもっています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などを通し意見を出す場が設けられています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場になるよう互いに意見を出し合い協力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、外部研修に参加すると共に参加した職員がそれをもち帰り他の職員に研修しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの交流や情報交換をするなどしてサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、御家族から話を聞きその方を知る努力をしています。馴染みの物をそばに置き自分の家と同じように思える環境作りをし安心して生活できる様にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時など多くの会話をもち、不安や要望に耳を傾けよい関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接から入居までの間に本人や御家族の意見要望を聞き、一ヶ月のプランを立てその後再度話し合い本プランをたて支援にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の生活の智恵や昔の風習などを聞き活用しながら共に生活する物としての関係作りをしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームや町の祭りに御家族の参加を呼びかけたり、日々の生活をお便りにして毎月お知らせするなどして本人、御家族、職員のよい関係作りをしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人の面会時はゆっくり話しができる場を提供するようにしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や能力を把握し家事やレクリエーションを通して孤立することのないように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も御家族の要望により情報を提供したり相談にのるなど支援をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や御家族からどのように暮らしをしたいのか話しを聞き、把握して、その意に添うよう支援するように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や御家族から話しを聞き、馴染みの家具や仏壇を置いたり、今までの暮らしをできるだけ尊重しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	基本的な1日の流れは決まっているが、本人との会話、表情から本人のペースに合わせて対応しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や御家族を含めカンファレンスの中で意見交換、話し合いをし介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会話や様子など、また御家族との会話等も支援経過に記録するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町のいきいきサロンに参加したり、買い物や外出の要望にできる限り対応するように努めています。		

静岡県(グループホーム徳倉 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区のスポーツ祭、敬老会、保育園の納涼祭などに参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	係りつけ医での適切な治療を続けていけるよう本人や御家族と話し合い、また相談しあい受診する様しています。(バイタルチェックやケース記録を活用する)		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護師が見え健康管理や医療相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期に退院できるよう情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員の間では会議や勉強会において終末期の指針を元に理解を深めています。また本人や御家族から医療に関する確認書を頂きチームで支援できるよう取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師や消防士による講習を実施しています。急変に対しシュミレーションを行い、マニュアルの強化をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災通報装置を使用した避難訓練を実施。また不定期に避難訓練を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自室、トイレ時にはノックをし、便確認時にも回りの利用者様に気づかれないように小さな声での声かけをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の衣類はご自分の好きな服を選んで頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おやつで食べたい物欲しい物がある場合一緒に買い物に行き、食べたい時に食べて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る物を選んでもらったり、悩まれている時は職員と一緒に選んだりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声掛けして食事の準備を手伝ってもらったり、買い物時食べたいものを聞き献立に取り入れたりしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が摂れるようろみをつけたり、水分が足りてない場合ゼリーを作ったり声かけする、1日の水分量を把握記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア後、少しのよごれが残っている場合は介助しています。		

静岡県(グループホーム徳倉 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけしてトイレに誘導したり、パット使用の方はご自分で交換後確認させてもらったり清拭する事により清潔を保ち自立できるように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない日が続いた時は温タオルで温め、腹部マッサージしたり医師や看護師の指示により便秘薬を調整したりしています。散歩等の運動にも努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	病院、外出、体調に応じて入浴時間、曜日の変更をして対応しています。拒否のある時等も同様です。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間に合わせて支援している、日中、休んでもらったりとその方に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があった時は申し送りを必ずしています。支援日誌などにも記入し様子観察をしそのことも記録し申し送りしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事、縫い物、掃除等その人の得意な物を手伝ってもらっています。誕生日にはささやかなお祝いを皆でしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物等職員から声かけ外に出ても良いと思える様声掛けの仕方を変えたりする。拒否のある時は無理をしなようにしています。		

静岡県(グループホーム徳倉 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの管理ですが、御家族の了承されている方がお小遣い程度のお金を持っています。欲しい物がある時は職員と一緒に買い物に行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をして頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	教養のスペースは掃除も行き届き明るく綺麗になっています。居間や廊下には季節の花や折り紙で飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、気のあった利用者様同士で会話を楽しまれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の好きな置物、飾り物など自宅で使用していた物などで居心地よくして頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トレイの場所がわかるように表示しておりフロア内には手すりも設置され利用者が安全に移動できるようにしています。		